

在宅ケアシステム論	3年・後期	1単位	准教授 島田 昇
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33310873

1. 授業のねらい・概要

本科目は、在宅看護学実習での学びを基に、在宅看護における看護過程の振り返りを通して、在宅ケアマネジメントの思考過程の定着化を図る。併せて、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について学ぶ。

2. 到達目標

1. 在宅看護の特徴を踏まえたケアマネジメントについて理解する。
2. 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割を理解する。

3. 授業の進め方

講義とグループワークを中心に授業を行う。

* 演習のグループワークは、個人ワークの後、グループで検討することを繰り返して行う。

4. 授業計画（演習）

1. 在宅ケアとケアマネジメント	10. 事例展開B：療養者全体像
2. 事例紹介・グループワークの進め方	11. 事例B発表とディスカッション
3. 事例展開A：アセスメント	12. 訪問看護の知識と技術① (医療的ケア技術)
4. 事例展開A：アセスメント	13. 訪問看護の知識と技術② (地域包括ケアシステムの仕組み)
5. 事例展開A：療養者全体像	14. 訪問看護の知識と技術③(芝山 江美子) (地域包括ケアシステムと社会資源の活用)
6. 事例A発表とディスカッション	15. 訪問看護の知識と技術④(芝山) (在宅看護におけるケアマネジメントと多職種連携)
7. 事例展開B：アセスメント	
8. 事例展開B：アセスメント	
9. 事例展開B：療養者全体像	

5. 成績評価の方法・基準

定期試験(受験資格は3分の2以上の出席した者)60%、事例展開40%で総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：1)ナーシング・グラフィカ 在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版
2)看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術 メヂカルフレンド社
3)写真でわかる訪問看護アドバンス インターメディカ

持参するもの：在宅看護実習の事前学習、家族看護学で配布された資料。

7. 準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

事例展開の予習(事例を読み込み、アセスメントシート、療養者の全体像シートを記入)を行う。
また、講義で行った内容を復習すること。

8. 受講上の留意事項

講義やグループワークに積極的に参加すること。

9. 課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は教員が確認して返却する。内容が不備なものは再提出を求める。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり、修得できない場合進級不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

行政機関及び医療機関における保健師としての実務経験を活かして、講義・演習の指導を行う。